

研究機関名：東北大学

受付番号： 2013-1-360
研究課題名:膵神経内分泌腫瘍の病理組織学的検討
研究期間 西暦 2013年11月(倫理委員会承認後)～2018年10月
対象材料 ■病理材料(対象臓器名 膵臓) ■生検材料(対象臓器名 膵臓) □血液材料 □遊離細胞 □その他 ()
上記材料の採取期間 西暦 2008年1月～2013年8月
<研究の目的・意義> 神経内分泌腫瘍(neuroendocrine tumor:pNET)は、神経内分泌細胞由来の腫瘍であり、全身の各臓器に発生しうる。膵臓由来の NET は(Pancreatic NET:pNET)と言われ、膵腫瘍の中でも数%と稀である。膵臓から各種内分泌ホルモンの分泌を認めることから、ホルモン産生の有無から機能性腫瘍、非機能性腫瘍に分類される。また、2010年にWHO病理分類が改訂され、mitosis rateとKi67 indexから分類される事となった。Mitosis rateとKi67 indexが<2/10high power fields(HPF)もしくはKi67 index <2%をG1、2-20/10 HPFもしくはKi67 index 3-20%をG2、>20/10HPFもしくはKi67 index <20%を神経内分泌細胞癌(neuroendocrine carcinoma(NEC))と定義されたが、これらを術前に診断する事は困難である。 近年超音波内視鏡下穿刺吸引生検(EUS-FNA)が普及し、膵臓から組織を採取することが可能となり、生検材料からのpNET診断が普及し始めている。しかし、pNETに対するEUS-FNAの有用性は不明である。 本研究の目的は、pNETの膵臓の切除標本、もしくはEUS-FNAで採取した膵臓の生検材料を元に病理組織学的検討を行い、pNETのEUS-FNAによる診断能を解明することである。
方法:手術時に採取されたpNETの膵臓、またEUS-FNA下に採取された膵臓から病理組織学的に検討する。 具体的にEUS-FNAによるpNETの病理組織学的診断能の検討と、pNETの手術検体とEUS-FNA検体のKi67 indexを比較し、術前にpNETのGrade分類が可能か検討する。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学大学院医学系研究科消化器病態学分野 研究代表者 菅野 敦(事務局) 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 電話:022-717-7171